

道徳「知らないよ。」

23日（火）1限の道徳で「知らないよ。」という物語を使って授業を行いました。この「知らないよ。」では自主、自律、自由と責任というテーマを元に、主として自分自身に関することを考える内容になっています。さらに、5月末に控えた修学旅行に向けて普段の自分を振り返ることも含まれていました。

あらすじ・・・

文化祭の準備を背景に、中学3年生の「僕」の視点で書かれた物語である。登場人物の真緒は、中学最後の思い出にと、文化祭の実行委員に立候補した。しかし、クラスメートの中で、推薦入試で有利になるから実行委員をしているのだとうわさになる。「僕」は、真緒が「中学校最後だからさ。『みんなでやった、みんなでやり切った。』って思いたくて。卒業したら、ばらばらになっちゃうんだものね・・・。それに、自分からやるって言ったんだもの。」と話しをしているときに言っていたのを知りながら、うわさに対して「知らないよ。」と言ってしまった。そのままうわさを否定できず、真緒との関係が悪くなってしまう。

①真緒さんの「中学校最後だからさ。」の言葉を聞いてどう思いますか？

- 共感する。自分も頑張らないと、と思うし、思い出に残るようなものにしたい。
- 真緒さんはクラスと最後まで楽しく過ごしたいと思っていたと思う。
- 少しだけ協力しようかなと思う。
- 一生懸命ですごいなと思った。



②僕はどうして「知らないよ。」と言ったのか。

- 真緒さんの悪口を言っていてそれに反論するのが怖かったから。
- 急に自分に矛先がむいて怖くなった。
- 自分が悪者になりたくなかったから。
- 自分をかばったから。
- 他人事にしたかった。



③「小さな事件の後も、真緒の一生懸命さは変わらなかった。」のはどうしてだと思いますか？

- 自分の中で決めた固い気持ちはかわらないから。何があってもやると決めたことは一生懸命やりとげようと思ったから。
- 人に文句を言われても別に自分の中で言われたからやめるんじゃないで最後までやるのが自分にとってゴールだと思ったから。
- 自分の「みんなでやり切った」って思いたい思いをつらぬいた。
- 今回の文化祭が中学生最後なことになり変わらないから。



授業の感想

- クラスみんなでやることは、クラスみんなで協力したらより成功につながった。自分の気持ちを相手に伝えるのは難しいけど大切なことだと思った。
- 人が嫌なことを言われているのに「見て見ぬふり」をしてしまうことは実際仕方ない時もあるけど、少しでも人を助ける言葉が増えたらいいなと思う。
- 人が頑張っているのに自分が悪いことを言われるのが嫌で一生懸命の人の努力をつぶしてしまうのはダメだと思う。自分のきもちも大事だけど、その気持ちを出すことと隠すのではどちらが相手のためになるのかを考えないといけないと思った。

この物語では文化祭の実行委員とクラスメートとの間に起こった行き違いの物語を通して、自分で考え、誠実に行動することがなぜ大切なのか考え、誠実に行動することがなぜ大切なのかを考えてもらいました。自分は、日常生活において誠実に行動できているのか振り返りました。「僕」の心情だけではなく、真緒やクラスメートなど、違う立場の登場人物の思いも考えることができていました。さらに、周囲に流されたり、逃げたりせずに、自分で考えて、誠実に行動するように意識しようと考えてくれていました。

今までの自分はどでしたか？これからどのような行動をしますか？

